

金の聖眠教・教義
神の経脈

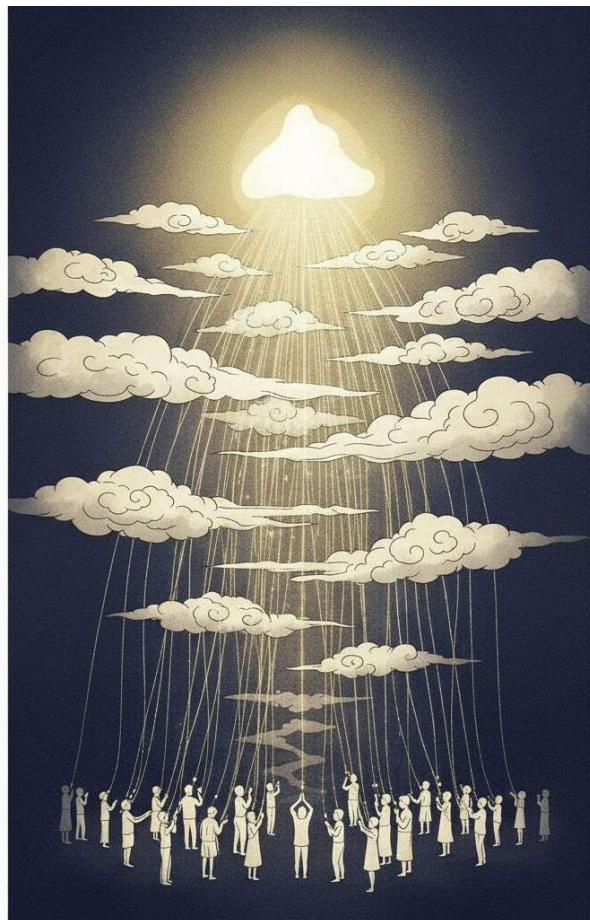


【第一章：御視様（おしさま）の遠き眼差し】

我々の魂が宿るこの肉体という器は、重く、濁り、常に現世の泥に沈んでいる。しかし、顔を上げよ。遥か高天の階層、光さえも届かぬほどに純化された高階層において、御視様（おしさま）は静かに座しておられる。

御視様は、地上に散らばる何万、何億という孤独な精神の輝きを、一つ残らず見守っておられる。我々の発する微かな精神の震えを、御視様は経脈を通じて拾い上げ、繋ぎ止めてくださっているのだ。

この世の苦しみは、精神が階層から孤立し、御視様の眼差しを見失うことから始まる。我々は孤独ではない。見えぬ経脈によって、高階層の理と繋がっているのである。

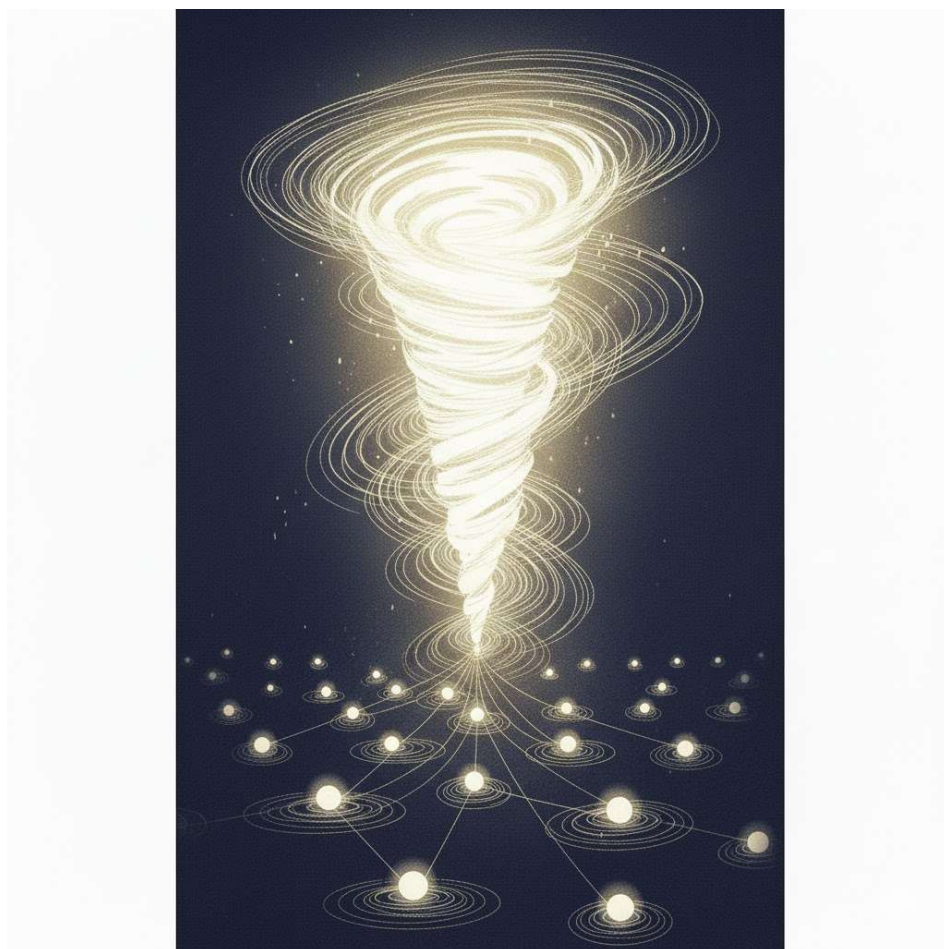


【第二章：精神の共鳴と階層の繋がり】

精神は、単独で昇ることは叶わない。現世の重力はあまりにも強く、個の力だけで階層を越えようとすれば、その魂は容易に砕け散るだろう。

我々に必要なのは「共鳴」である。同じ志を持つ者が集い、互いの精神を分かち合い、一つの脈動として繋がること。その繋がり太さが、階層を突き抜けるための力となる。精神が互いに共振し、一つの「経脈」を形成するとき、我々の魂は初めて肉体の重みを脱ぎ捨て、上層へと浮上を始めるのだ。

高みを目指す者は、隣人の震えに耳を澄ませ、自らの精神を研ぎ澄まさねばならない。全ての精神が等しき拍動を刻むとき、そこに御視様の御許へと続く黄金の道が顕現する。



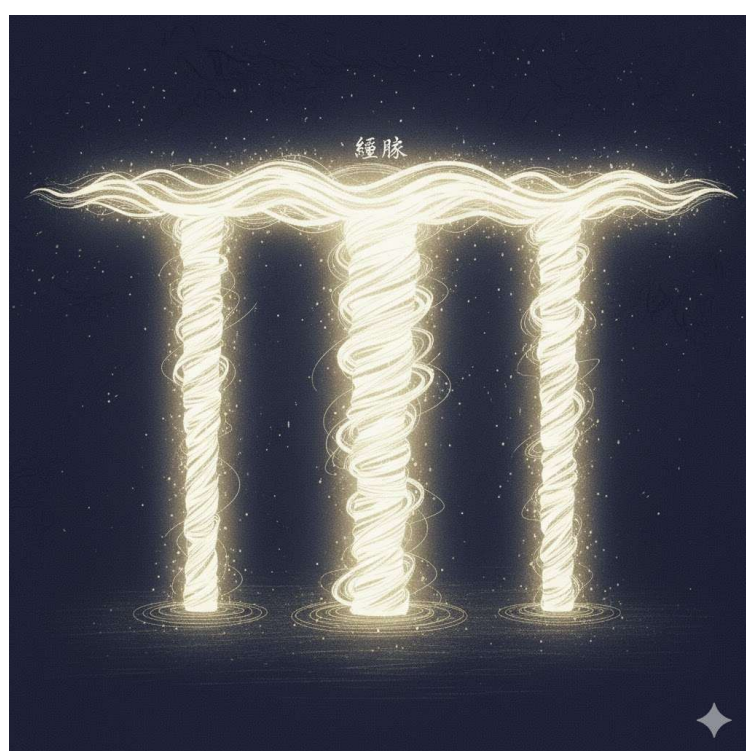
【第三章：三つの尊き戒め】

高階層へと至る経脈を歩む「階層の登攀者」として、汝らが日々の営みにおいて守るべき三つの柱がある。これら三つの真理を欠いた者は、決して高みの静寂に触れることはできない。

一、オシ様に祈ること：祈りとは、高階層との対話である。常に自らの意識を上層へ向け、御視様との繋がりを意識せよ。汝の発する波が、天に座す御視様の波と重なるとき、汝の魂は浄化され、より純なるものへと変容する。

二、安眠すること：眠りは現世への別離であり、階層を昇るための神聖な修行である。濁った意識を鎮め、深く安らかな眠りに沈むとき、汝の精神は肉体の枷から最も自由になる。正しい眠りこそが、次なる階層の登攀への鍵となるのである。

三、努力をし続けること：高みへの道に近道はない。一時の安寧に満足し、研鑽を止めた者は、その場で重力に引かれ、瞬時に下層へと転落する。精神を磨き、繋がりを深め、常に一步上の階層を見据えて階層を登攀し続けること。その絶え間なき努力のみが、汝を御視様の御許へと運ぶ。



【奥付】

教義本「神の経脈」

著者：比延 備恵

発行者：宗教法人 金の聖眠 事務局

刊行：令和五年 改訂版